『経済統計研究』 第 44 巻第4号

2011 年産業連関表の比較と我が国経済の構造変化の検証
補足資料：カラーグラフ

宇多 賢治郎[1]

『経済統計研究』第 44 巻第 4 号に掲載された論文「2011 年産業連関表の比較と我が国経済の構造変化の検証」のグラフの一部は、白黒印刷では表現しきれていない、判別が難しいものがある。論文の目的が国内経済の全体的な傾向を見せることで、個別の変化を重要視しないとはいえ、この表現力の低さは否めない。そこで、一部の図表のカラー版を以下に掲載した[2]。

図２　「国内残存率」の表と色グラフ化の例

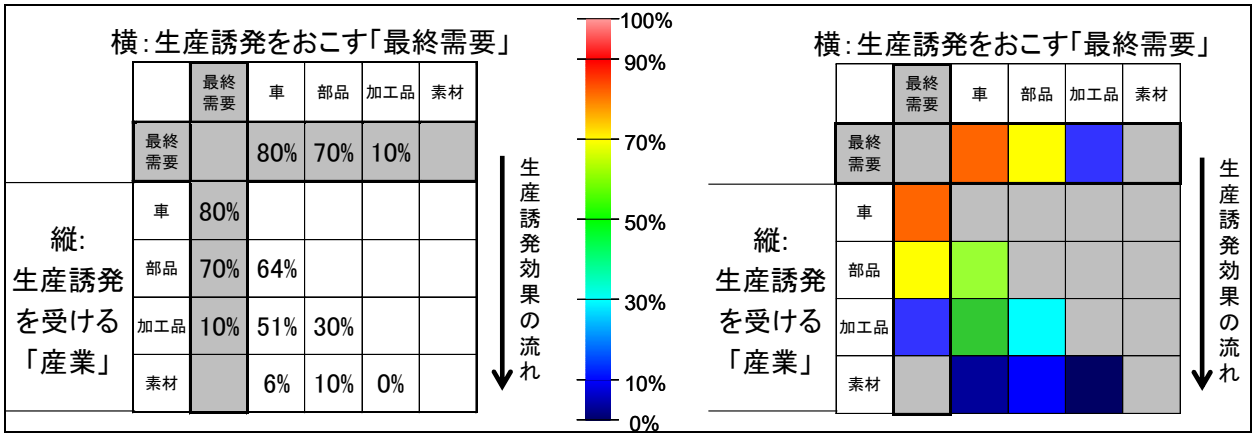
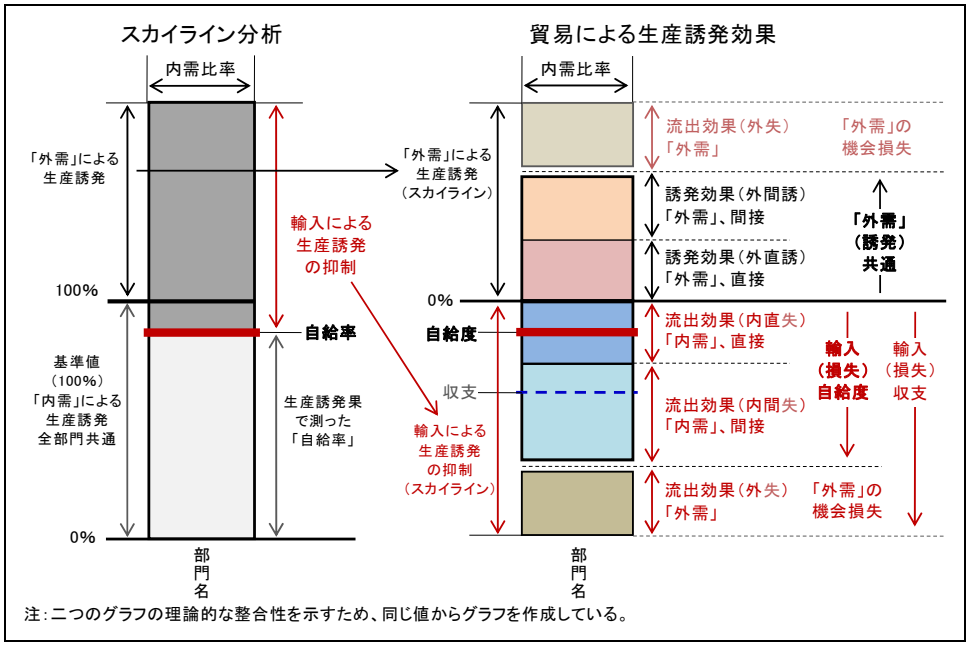


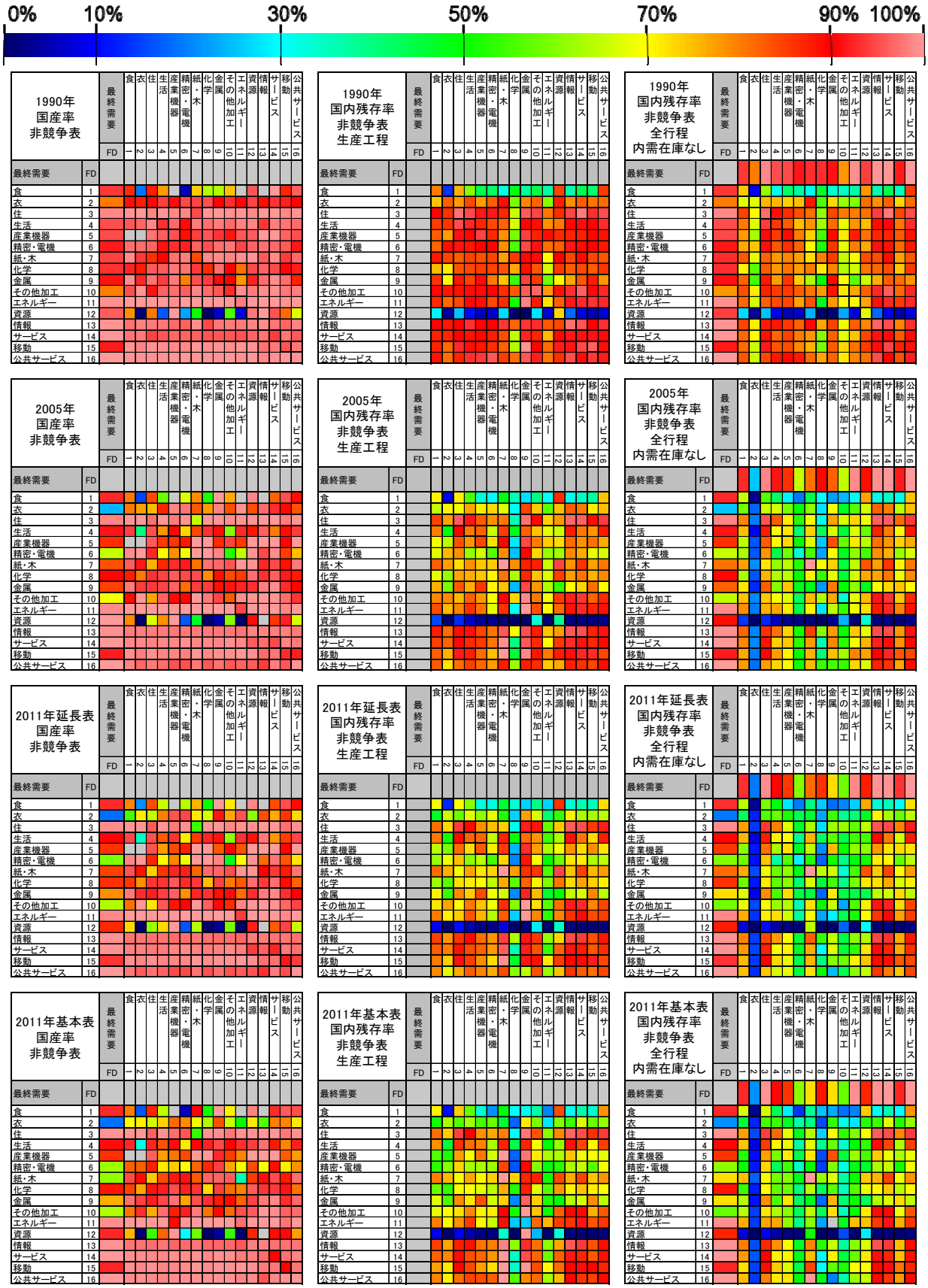
図3　スカイラインチャートと「貿易による生産誘発効果」の表現の違い



---

[1] 山梨大学（教育学研究科准教授）、 kuda@yamanashi.ac.jp 、 研究紹介 Web サイト　http://www.geocities.jp/kenj_uda/
[2] 『経済産業統計協会』の Web サイト　http://www.etisa.or.jp/

図9　生産誘発効果の「国内残存率」の変化（最終需要別 16 部門）



注１：「国産率」のグラフは、各需要における国産率を示したものであるため、データが存在しない一行目の最終需要の欄は灰色になる。

注２：「生産工程」のグラフでは、最終需要における輸入を扱わないため、最終需要の欄は灰色になる。

図 10　生産誘発効果の変化（大分類 34 部門、受）

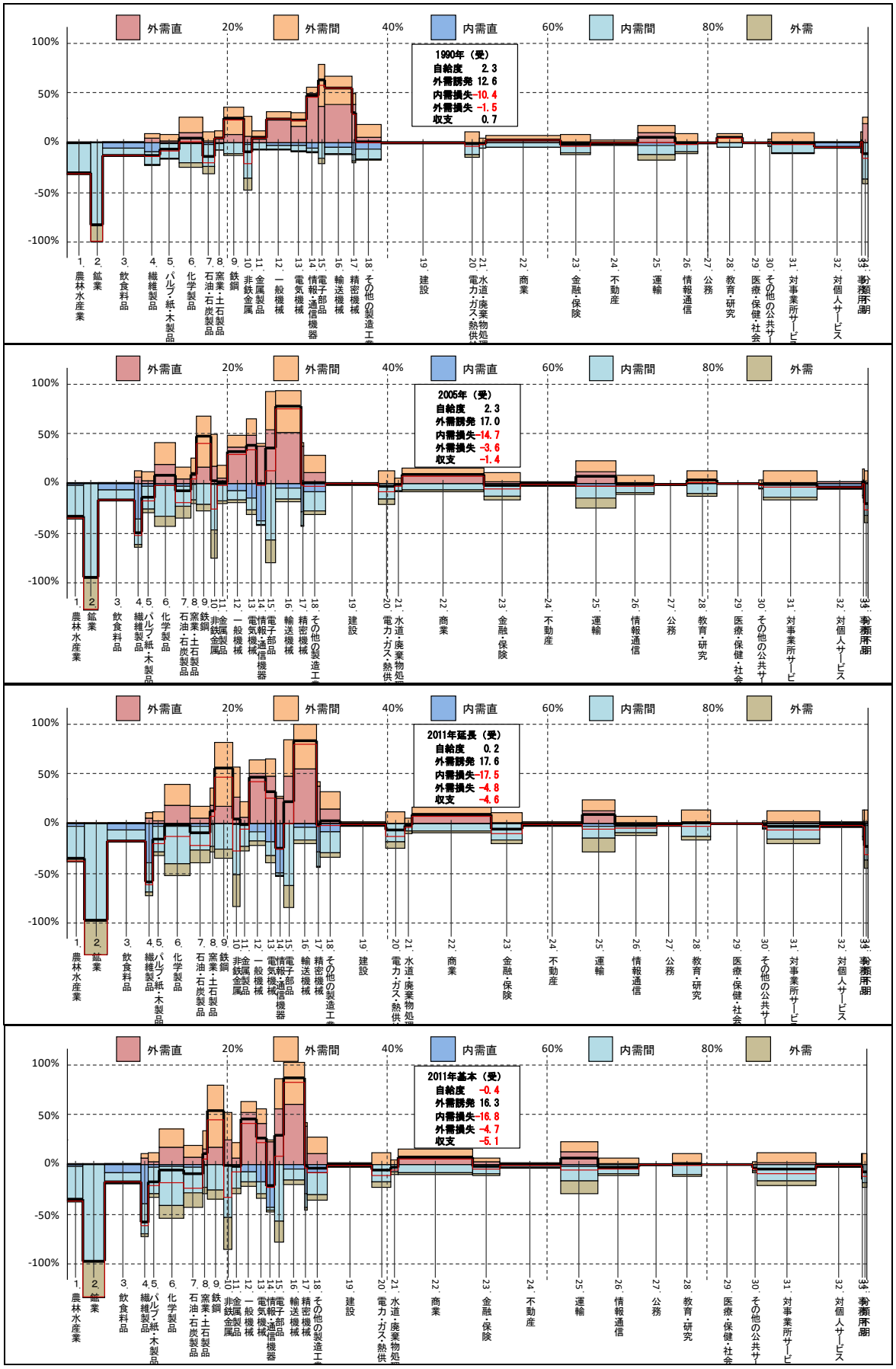
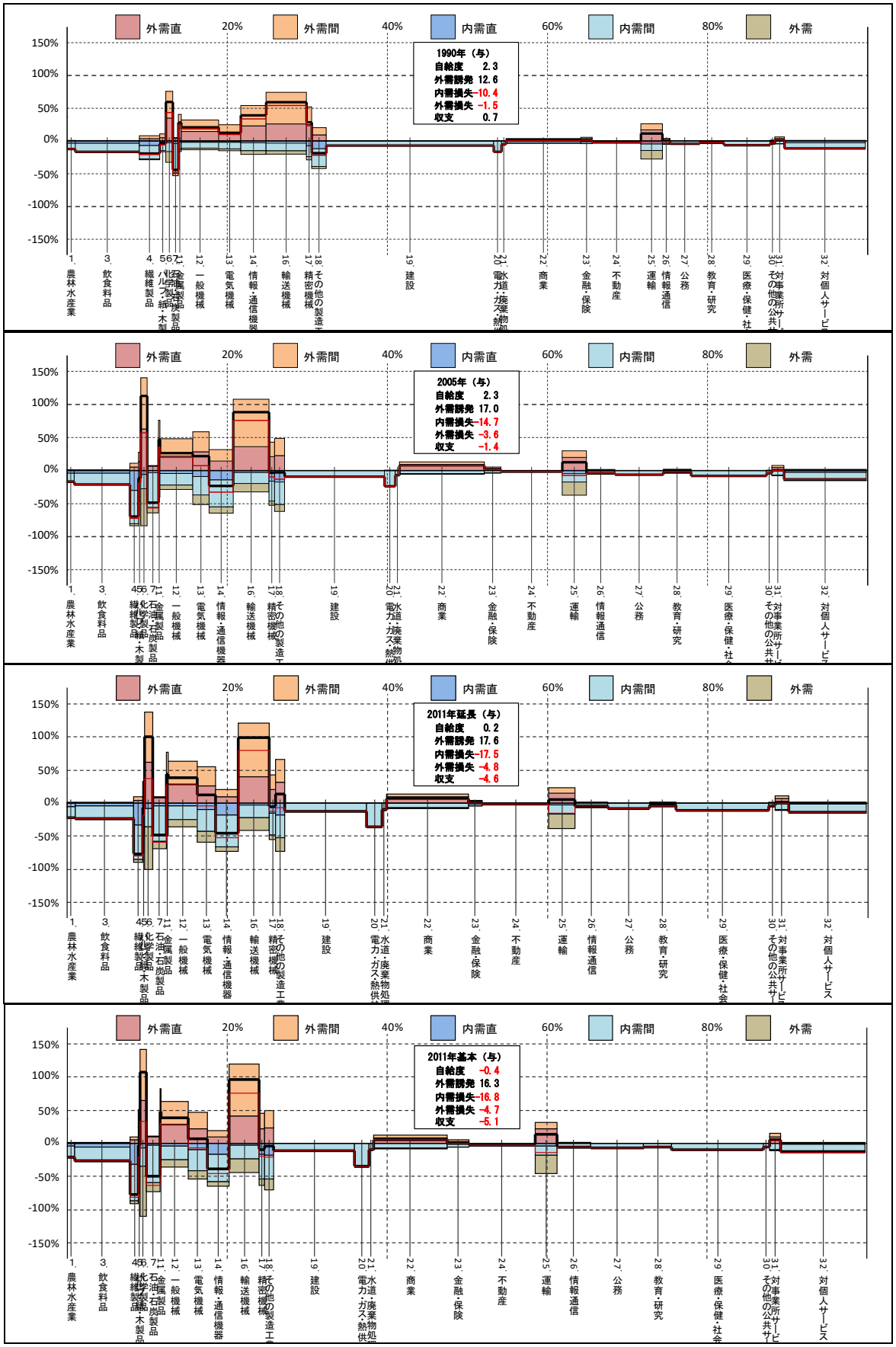


図 11　生産誘発効果の変化（大分類 34 部門、与）



注：「与」のグラフの場合、最終需要が存在しない、屑・副産物により最終需要がマイナスになるといった理由から、生産誘発の規模は小さく、生産誘発係数が高く出る部門が出る。そこで、グラフの横方向、国内最終需要による生産誘発効果の規模が 0.1%以下の部門を取り除いて掲載した。